

# 幼少期の家庭環境が学習態度に与える要因

伊藤 匠威

世帯の経済格差や親の学歴などが子供の教育達成に影響を与えることは広く知られている。近年では「親ガチャ」という言葉が流行するなど、社会でも教育や格差に対する意識が高まっているといえる。子供の教育達成が高くなる家庭とそうでない家庭では、その家庭環境にいくつかの違いがあり、その違いが子供の教育達成に影響を与える要因となっていると考える。また、そのような要因同士は子供の教育達成が高くなった家庭とそうでない家庭にそれぞれ偏って存在していると予想する。

子供の教育達成が低くなる要因としては、母親が就業していること、きょうだい数が多いこと、ひとり親であること、比較的教育資源の乏しい地域に住んでいること、国・私立中学ではなく公立中学校出身であること、学校外教育投資が低いことが挙げられる。また、要因間の分析では、大都市において父親の片働きや一人っ子の世帯が多く、第一子に学校外教育費が多く投入されるという傾向などから、子供の教育達成に影響を与える要因は、正の効果を持つ要因同士、負の効果を持つ要因同士でそれぞれ家庭に偏って集まる傾向にあり、教育における格差の再生産を拡大している可能性を示した。